

科目名	成人・老年看護方法V(看護過程) Adult & Gerontological Nursing V		担当教員 (研究室番号)	長谷川智之(302) 関根由紀(504) 清水律子(506) 田端真(308) 岡根利津(308) 竹村和誠(308) 山本奈津美(308)	教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学	選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
										オープンクラス	否
科目目的	成人および老年看護学における既習の知識を活用し、病期およびライフサイクルを考慮した看護過程を展開し、対象に応じた必要な思考過程を学ぶ。										
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)									
	関連するDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある患者の情報から計画立案まで、自己学習およびグループディスカッション内容を基に理解することができる。 2. 慢性期にある患者の情報から計画立案まで、自己学習およびグループディスカッション内容を基に理解することができる。 3. 老年期にある患者の目標志向型思考を用いた看護の焦点と援助方法および退院支援について、自己学習およびグループディスカッション内容を基に理解することができる。 4. 自己学習を基にグループディスカッションおよび演習に積極的に参加できる。 										
成績評価方法(基準)	看護過程(72%)、グループディスカッション貢献度(28%)										
再試験の有無と基準等	本科目の評価は、看護過程に関する課題とグループディスカッション貢献度で行うため、再試験を行わない。										
教科書	看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 NANDA-I看護診断 2021-2023										
参考書等	適宜紹介する。										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	本科目は、グループディスカッションを通して、周術期、慢性期および老年期にある患者の看護過程を展開することが中心となります。主体性と論理的思考を基盤に、様々な対象に応じた必要な思考過程を確実に身に付けてください。										
備考											
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	看護過程について ゴードンの機能健康パターンについて 記録用紙の使用法について			看護過程、ゴードンの機能健康パターンおよび記録用紙の使用法について学ぶ。 看護過程の事例(周術期、慢性期、老年期)について紹介する。				長谷川他	演習		
2回	周術期にある患者の看護過程の展開 術後患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、健康知覚・健康知覚パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				長谷川他	演習		
3回	周術期にある患者の看護過程の展開 術後患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、排泄パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				長谷川他	演習		
4回	周術期にある患者の看護過程の展開 術後患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、活動・運動パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				長谷川他	演習		
5回	周術期にある患者の看護過程の展開 術後患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、睡眠・休息パターンおよび認知・知覚パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				長谷川他	演習		
6回	周術期にある患者の看護過程の展開 術後患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、患者の全体像および看護問題の優先順位について明確にする。				長谷川他	演習		
7回	周術期にある患者の看護過程の展開 術後患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、目標および計画について明確にする。				長谷川他	演習		
8回	慢性期にある患者の看護過程の展開 慢性疾患と共に生きる患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、健康知覚・健康知覚パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				関根他	演習		
9回	慢性期にある患者の看護過程の展開 慢性疾患と共に生きる患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、栄養・代謝パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				関根他	演習		
10回	慢性期にある患者の看護過程の展開 慢性疾患と共に生きる患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、価値・信念パターンにおける情報分類、解釈・分析について明確にする。				関根他	演習		
11回	慢性期にある患者の看護過程の展開 慢性疾患と共に生きる患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、看護診断および優先順位の決定について明確にする。				関根他	演習		
12回	慢性期にある患者の看護過程の展開 慢性疾患と共に生きる患者とその家族への看護			グループディスカッションをもとに、目標および計画について明確にする。				関根他	演習		
13回	老年期にある患者の看護過程の展開 高齢患者やその家族への看護			老年期における看護過程の展開の特徴として、生活行動モデル、ストレングスモデル、目標志向型思考について学ぶ。また、グループディスカッションをもとに、加齢や健康障害が生活に及ぼす影響について明確にする。				清水他	演習		

14回	老年期にある患者の看護過程の展開 高齢患者やその家族への看護	グループディスカッションをもとに、高齢患者の望む生活や状態像を見据えた目標志向型思考を用いた看護の焦点と援助方法について明確にする。	清水 他	演習
15回	老年期にある患者の看護過程の展開 高齢患者やその家族への看護 全体のまとめ	高齢患者やその家族の退院後の生活を見据えた看護過程の展開について学ぶ。また、グループディスカッションをもとに、退院支援について明確にする。	清水 他	演習

学 習 課 題

1回目課題（事前）：看護過程について復習する。
2回目課題（事前）：指定された記録用紙の、健康管理・健康知覚パターンに必要な「情報分類」「解釈・分析」を記述する。
3回目課題（事前）：指定された記録用紙の、排泄パターンに必要な「情報分類」「解釈・分析」を記述する。
4回目課題（事前）：指定された記録用紙の、活動・運動パターンに必要な「情報分類」「解釈・分析」を記述する。
5回目課題（事前）：指定された記録用紙の、睡眠・休息パターンおよび認知・知覚パターンに必要な「情報分類」「解釈・分析」を記述する。
6回目課題（事前）：指定された記録用紙の関連図を作成する。
7回目課題（事前）：指定された記録用紙の、目標（長期、短期）および計画（OP, TP, EP）を記述する。
8回目課題（事前）：指定された記録用紙の、健康知覚・健康管理、排泄パターンの「情報分類」、「アセスメント」、「看護診断」について記述する。
8回目課題（事後）：指定された記録用紙の、セクシャリティパターンの「情報分類」、「アセスメント」、「看護診断」について記述する。
9回目課題（事前）：指定された記録用紙の、栄養・代謝、役割・関係の「情報分類」、「アセスメント」、「看護診断」について記述する。
9回目課題（事後）：指定された記録用紙の、自己知覚・自己概念パターン、ストレス・コーピングパターンの「情報分類」、「アセスメント」、「看護診断」について記述する。
10回目課題（事前）：指定された記録用紙の、活動・運動、価値・信念パターンの「情報分類」、「アセスメント」、「看護診断」について記述する。
10回目課題（事後）：指定された記録用紙の、認知・知覚パターン、睡眠・休息パターンの「情報分類」、「アセスメント」、「看護診断」について記述する。
11回目課題（事前）：事例患者に適した看護診断を行い、優先順位について記述する。
12回目課題（事前）：看護診断に対する「目標」および「看護計画」について記述する。
13回目課題（事前）：加齢に伴う身体・心理・社会的側面の変化とそれに伴う生活の変化について記述する。
13回目課題（事後）：生活行動モデル、ストレングスモデル、目標志向型思考の考え方について記述する。
14回目課題（事前）：目標志向型思考での看護の焦点について記述する。
14回目課題（事後）：グループでの意見交換を踏まえ、対象の退院後の生活を見据えた援助について整理し記述する。
15回目課題（事前）：多職種連携の必要性と社会資源について記述する。
（事前）：計画の実施、評価、修正を行う。
（事後）：事例患者の看護過程をファイルにまとめレポート課題として期日までに提出する【評価対象】。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。また、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本科目の演習を行う。